

モーリタニア月例報告  
(2023年12月)

2024年1月  
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【外政】

- 12月1日 COP28 (ガズワニ大統領の演説)  
12月1日～3日 COP28のマージンでの各国とのバイ会談  
12月1日及び2日 モーリタニア・中国関係  
(中国共産党中央対外連絡部代表団のモーリタニア訪問)  
12月5日 G5サヘル (モーリタニア及びチャドによる共同コミュニケ)  
12月6日 モーリタニア・セントルシア関係 (外交関係の設立)  
12月14日 モーリタニア・EU関係 (移民問題等に係る協議)  
12月16日 モーリタニア・スペイン関係 (両国外相の相手国訪問)  
12月18日～20日 モーリタニア・EU関係  
(欧州議会代表団 (マグレブ諸国関係担当) のモーリタニア訪問)

【経済協力】

- 12月19日 アフリカ開発銀行理事会「225kV送電線事業」承認  
12月19日 平成30年度対モーリタニア無償資金協力  
「ONISPAヌアディブ検査・分析所建設計画」(引渡式の実施)

【文化】

- 12月19日 一般向け対日理解促進講義  
12月25日及び26日 国立行政・報道・司法学院での対日理解促進講義

【その他】

- 12月21日 モーリタニア・日本友好議連発足式

## 【外政】

### ●COP28（ガズワニ大統領の演説）（12月1日付当地政府系メディアAMI）

1. 冒頭、アラブ首長国連邦（UAE）のムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン大統領の温かい歓迎とこの上ない歓待に心から感謝申し上げるとともに、同大統領及びUAE国民に対し、UAEユニオン・デーの祝賀と第28回気候変動枠組条約首脳会議の開催を祝したい。UAEは、その先見的なビジョンとリーダーシップにより、持続可能性の推進と環境問題全般への取組みにおいて、常に最前線に立ってきた。また、COP28サミットの議長であるスルタン・ジャベル閣下によるこのイベントの厳格かつ完璧な運営に祝意を表したい。また、アントニオ・グテーレス国連事務総長の気候変動分野における多大なご尽力に感謝申し上げる。

2. 環境問題ほど、人類の運命共同体が強く、明確に表れているものはない。地球の気温の絶え間ない上昇は、年々、気候変動の深刻さと、砂漠化、干ばつ、自然災害、生態系のバランスの崩壊といったその壊滅的な結果を悪化させており、地球上の人間の生活の継続、さらには生命の継続さえも脅かしている。気候変動との闘いは、我々全員の責任である。したがって、我々全員を巻き込む闘いなのである。勝つか負けるかは我々次第なのだ。我々は皆、団結した努力と連帯の行動の積み重ねなしには勝てないことを自覚している。

3. これは基本的に2つのプロセスに基づいている。特に後発開発途上国において、気候変動が経済的・社会的基盤に及ぼす悪影響に直面し、適応力と強靭性を強化するプロセス、及び低炭素な開発プロセスを構築し、クリーンな再生可能エネルギーの利用を発展させることによって、排出量を徐々に削減していくプロセスである。そして、いずれの道においても、国際的な協力と連帯があってこそ成果が得られる。

4. なぜなら、決定、宣言、財政的なコミットメントが、現場で具現化されるのに苦労しており、特に途上国において、各国の気候変動への貢献の効果的な実施を妨げているからである。したがって、環境への適応と変革のための資金を大幅に増額し、開発途上国の負債を悪化させない形で配分することが緊急かつ基本的な課題である。

5. モーリタニアは、気候変動の影響を最も受けている国のひとつであり、砂漠化、干ばつ、不規則な降雨など、気候変動がもたらすあらゆる影響を受けてい

る。砂漠地は国土の80%以上を覆い、相次ぐ干ばつは農村の社会的・経済的基盤を弱体化させ、食料安全保障を脅かし、経済発展を妨げている。これらは、水資源、農業生産、畜産開発、海洋資源、自然生態系といった重要な分野に悪影響を及ぼしている。したがって、気候変動との闘いが、社会的、経済的、環境的、さらには安全保障上の必須課題であることを、我々は十分に認識している。

6. このような状況に直面し、我々は、「緑の壁」イニシアティブを通じ、サヘル気候委員会やサヘル干ばつ対策合同委員会に積極的に貢献し、サウジアラビアが立ち上げた「中東グリーン・イニシアティブ」を採択し、地球環境上関心の高い海洋・沿岸地域の持続可能な管理に投資するなど、砂漠化と闘うために多大な努力を払ってきた。

7. さらに、我々は国民の強靭性を高め、気候変動が社会・経済システムに与える影響に適応するためにあらゆる努力を払ってきた。我々は貧困や脆弱性と闘い、生産様式を見直し、砂漠化によって劣化した土地の生存可能性を回復するために努力してきた。我々は、適応力と強靭性への支援という観点からこのようなことを行ってきたが、再生可能エネルギーへの大規模な投資などの低炭素開発のプロセスもおろそかにしてこなかった。

8. 温室効果ガス排出量への貢献度は低いものの、総エネルギー消費量に占める再生可能エネルギーの割合は大幅に増加しており、2020年には34%に達し、2030年には50%に達する予定である。現在、グリーン水素の大規模な開発計画が進行中である。炭素排出量を11%削減するという「国が決定する貢献（NDC）」の改訂版で掲げた目標は、必ず達成できると確信している。

9. しかしながら、こうした努力のすべてにおいて、多くの途上国と同様、我々は、強靭性と適応力を構築し、公平で効果的かつ効率的なエネルギー転換を確保するために、さらなる国際的支援を必要としている。環境問題に取り組む途上国への支援レベルを引き上げ、この点に関するコミットメントを直ちに達成するよう改めて呼びかけるとともに、このサミットの取り組みが成功することを祈念する。

●COP28のマージンでの各国とのバイ会談（12月1日～3日付当地政府系メディアAMI及び当地独立系メディアサハラ・メディア）

1. マリアム・チャビ・タラタ（Ms. Mariam Chabi Talata）ベナン副大統領  
1日、ガズワニ大統領は、タラタ・ベナン副大統領と、二国間関係及び両国間の協力関係の強化・発展の見通しについて会談を行った。

2. サル・セネガル大統領  
1日、ガズワニ大統領は、サル・セネガル大統領と、地域的・国際的な問題、二国間関係及び両国間の協力関係の強化・発展の見通しについて会談を行った。

3. タミーム・カタール首長  
1日、ガズワニ大統領は、タミーム・カタール首長と、二国間関係、両国間の協力の展望、地域的・国際的課題及び、協力の強化・発展の方策について会談を行った。

4. マクロン・仏大統領  
1日、ガズワニ大統領は、マクロン仏大統領と、両国間の共通の関心事及び二国間関係について会談を行った。

5. ストルテンベルグNATO事務総長  
1日、ガズワニ大統領は、ストルテンベルグNATO事務総長と、モーリタニア及びNATOの相互利益、関係、協力の展望について会談を行った。

6. イトゥノ・チャド暫定大統領  
3日、ガズワニ大統領は、イトゥノ・チャド暫定大統領と、二国間関係、協力の展望、地域的・国際的課題及び、協力のあり方について会談を行った。

本会談は、ニジェール及びブルキナファソが2日に、G5サヘルからの脱退を発表したことを受けてのものである。本脱退理由について、ニジェール及びブルキナファソは設立から9年が経過したにもかかわらず、同組織が目標を達成できないと説明しており、両国が自国の国民の主権と独立を尊重しない「形式的な」パートナーシップにより、自国の利益を犠牲にして他国の利益に奉仕しているとして、G5サヘルを批判した。ブルキナファソ、ニジェール、及び2022年5月中旬に脱退したマリを含む「サヘル諸国同盟」の枠組みの中で、テロ及び国境を越えた犯罪との闘いを継続する意思を確認した。これら3か国の離脱後は、テロと闘い、サヘル地域における開発努力を調整・支援するために2014年に

設立されたG5サヘルの中で創設時から残っているのは、モーリタニアとチャドのみとなった。

●モーリタニア・中国関係（中国共産党中央対外連絡部代表団のモーリタニア訪問）（12月1日及び2日付当地政府系メディアAMI）

1. 1日、中国代表団のモーリタニア訪問プログラムの一環として、ヌアクショット国際会議センターで「貧困との闘いにおける中国共産党の経験」と題するシンポジウムが開催された。

シンポジウムのスピーチで、Mr. Jia Bo 中国アカデミー開発・研修交流部部長は、中国共産党が中国を開発における大きな飛躍へと導き、極度の貧困をなくし、中国を貧しい国から世界第二の経済大国へと変貌させたと説明した。

また、モーリタニアと中国の特権的な関係を歓迎し、相互の尊敬と配慮に基づく、長年にわたる強固な関係であると強調した。

シンポジウムには、モハメド・メライニン・ウルド・エイイフ（Mr. Mohamed Melainine Ould Eyih）インサーフ党（与党第一党）党首、Mr. Li Baijin 駐モーリタニア中国大使、モハメド・ヤヒヤ・ウルド・ホルマ（Mr. Mohamed Yahya Ould Horma）インサーフ党副党首、フォール・ンギッサリ（Mr. Fall N' Guissaly）インサーフ党事務局長、モクタル・ウルド・ハリファ（Mr. Mokhtar Ould Khlifia）モーリタニア・中国友好議員連盟会長兼国民議会外交委員会委員長が出席した。

2. 1日夜、メゲ国民議会議長は、中国共産党中央対外連絡部国際交流センター長を団長とする中国共産党対外連絡部のハイレベル・ミッションを受けました。

会談は、両者にとって、議会分野における両国の協力分野とその強化方法について検討する機会となった。

会談後、両者はモーリタニア・中国関係の発展の段階に係るプレゼンテーションを受けた。

これらの活動は、駐モーリタニア中国大使、ハリファ・モーリタニア・中国友好議員連盟会長、モハメド・ヤヒヤ・ホルマ・インサーフ党副党首の出席の下で行われた。

● G5サヘル（モーリタニア及びチャドによる共同コミュニケ）（12月5日付  
当地政府系メディアAMI）

1. 10年以上もの間、我々のサブリージョンは不均衡で国境を越えた戦争に  
直面してきた。現実的な懸念及び激しい暴力を背景に、我々の兄弟であり友好国  
である国々（ブルキナファソ、マリ、モーリタニア、ニジェール、チャド）は、  
2014年1月15日にヌアクショットでG5サヘルを立ち上げ、サブリージ  
ョンの安定を深刻に脅かしている安全保障と開発という二重の課題に共に取り  
組むこととなった。この新興共同組織の野心は、サヘル地域の安全及び安定の強  
化、民間人の保護及び社会経済開発の促進である。

2. このため、上記の3つの戦略目標を達成するためのさまざまな取り組みが  
開始された。

- 武装テロ・組織犯罪グループとの闘いを任務としているG5サヘル合同軍（F  
C-GSS）
- 安全保障、司法、保健及び開発の分野でサヘル諸国間の協力を強化するた  
めの国境を越えた協力プログラム（PCT）
- テロとの闘いにおいてサヘル諸国の治安部隊を訓練することを目的とした地  
域テロ対策訓練センター（CRF-LT）
- 軍の上級隊員の訓練を目的とした国境を越えた戦争学校である防衛学校

3. 2022年5月、マリがG5サヘルからの脱退を表明して以来、我々はこの  
事態がもたらした危機を克服し、模範的な協力の枠組みを具体化するための  
努力を惜しまなかった。2023年12月1日、ブルキナファソ及びニジェール  
は、合同軍を含むG5サヘルのすべての組織からの脱退を決定した。モーリタ  
ニア及びチャドは、ブルキナファソ及びニジェールの主権的決定に留意し、これを  
尊重する。

4. このため、G5サヘルの現議長国であるモーリタニア及び同組織のメンバ  
ーであるチャドは、アフリカ地域統合の理想及びG5サヘルの目的へのコミッ  
トメントを再確認するとともに、様々な困難や不測の事態にもかかわらず、サブ  
リージョンの武装勢力及び治安部隊間の協力のための関連メカニズム及び効果  
的な手段を果たし、G5サヘル設立条約、特に第20条の規定に従い、必要なす  
べての措置を実施する。

5. しかし、モーリタニア及びチャドは、サヘル地域のすべての国々とともに、  
同地域が直面する課題に対応するための努力を継続する意向である。両国はこ

の機会に、G5サヘル及びその加盟国への絶え間ない支援に対する技術的・財政的パートナーに謝意を表す。

ヌアクショット、ンジャメナにて、2023年12月6日

モーリタニア・イスラム共和国 モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ  
共和国大統領

チャド共和国 マハマト・イドリス・デビー・イトゥノ 暫定大統領・国家元首

●モーリタニア・セントルシア関係（外交関係の設立）（12月6日付当地政府系メディアAMI）

1. 5日午前、シディ・ウルド・モハメド・ラグダフ（Mr. Sidi Ould Mohamed Laghdaf）モーリタニア国連大使兼常駐代表は、ニューヨークにおいて、メニッサ・ランバリ（Ms. Menissa Rambali）セントルシア国連大使兼常駐代表とともに、モーリタニア及びセントルシアの外交関係設立に関する共同声明に署名した。

2. 同声明への署名は、我が国との二国間協力に関心を持つ平和を愛するすべての国々と外交関係を設立・強化することにより、世界のあらゆる地域における我が国のプレゼンスを強化するという、我が国の努力の一環である。

3. 同声明は、ニューヨークのモーリタニア国連代表部のエル・ハジ・ウルド・レビブ参事官の立ち会いの下、署名された。

●モーリタニア・EU関係（移民問題等に係る協議）（12月14日付当地政府系メディアAMI）

1. 11日、ブリュッセルで、EU、スペイン、仏、独が会するハイレベル会合が開催され、モーリタニアへの不法移民や難民の流入が増加している現象、またそれがもたらし得るリスクや被害について検討された。

2. (1) モーリタニア側からは、内務・地方分権省次官、国家安全保障総局長、外務省次官、経済・持続可能な開発省次官、漁業省次官、市民安全保障・危機管理総局長、沿岸警備隊司令官、地方行政総局長、国家憲兵隊西部地域司令官、航

空・国境警備局長、EU大使館参事官が出席した。

(2) 欧州側からは、移民・内務総局や国際パートナーシップ総局、欧州対外活動庁 (EEAS)、スペイン、仏及び独の内務省及び外務省、在モーリタニアEU代表部などを代表する23名の高官が出席した。

3. (1) 会合において、モーリタニア代表団は、モーリタニアは移民の出身国でも目的地でもないにもかかわらず、難民の増加や不法移民の増加により、公共サービス、雇用機会、天然資源の圧迫といった、モーリタニアが直面している課題や問題について詳細に説明した。

(2) 代表団はまた、二国間合意、特にモーリタニアとスペインの間の合意の見直しや更新に加え、モーリタニアとEU間の適切な枠組み合意の策定を通じた、双方の共通の利益を考慮した戦略的パートナーシップの枠組みにおける短期・中期・長期な欧州との協力の優先事項についても議論した。

4. 欧州側は、モーリタニアと、信頼できる戦略的パートナーとしてのモーリタニアの立場を高く評価し、モーリタニアとのパートナーシップの水準について留意するとともに、様々な分野におけるモーリタニアとの協力関係について詳細なプレゼンテーションを行い、会合の中でモーリタニア側の提案や希望に対して強い反応を示した。

5. 合法的な移民に関して、モーリタニア代表団は、モーリタニアに対するビザ発給枠を増やす一方で、特に患者、研究者、専門家、学生、若い求職者、ビジネスマン、プレス、地元団体の指導者、市民社会組織、観光客のための手続を容易にすることや、EU加盟国に行く際の外交旅券及び就労旅券のビザを廃止することを呼びかけた。

6. 同会合ではまた、(ブリュッセルで立上げの最中にある) 合同高等委員会の枠内で、双方の連絡担当官の任命、専門技術チームの編成、定期会合の日程調整など、両者間の協議を継続するためのメカニズムを設置することも決定した。

7. さらに会合では、来年1月以降、移民分野における協力に関する枠組み文書の草案を作成し、モーリタニア政府と欧州委員会委員長が協議の上、署名することにコミットした。



●モーリタニア・スペイン関係（両国外相の相手国訪問）（12月16日付当地独立系メディア「サハラ・メディア」）

1. (1) 12月15日、アルバレス・スペイン外務・EU・協力大臣は、大規模な代表団を率いてヌアクショットを訪問した。

(2) 到着後、スペインの大臣は、会談が両代表団のメンバーに拡大される前にメルズーグ外務大臣と会談した。

(3) 両者は両国を結びつける友好関係と戦略的パートナーシップ、そして相互の利益のためにそれらを強化・発展させる展望について提起し、また国際的・地域的な動きについても議論した。

(4) 両大臣は、両国間の友好善隣条約の最近の批准と、漁業、移民、安全保障、再生可能エネルギーの分野における二国間協力の水準を歓迎した。

(5) 両大臣は、すべての紛争を国連憲章と国際法・人道法に従って解決する必要性について、共通の見解を再確認した。

(6) この文脈で、メルズーグ大臣は、特にイスラエルによる無防備なパレスチナ人に対する戦争に関して、スペインの立場を歓迎した。

(7) スペイン外務大臣は昨年7月20日、セネガル訪問の際にモーリタニアを訪問している。

2. メルズーグ外相は、アフリカ投資ハイレベルフォーラムに参加するため、16日夕、ヌアクショットを発ち、スペインへ向かった。

●モーリタニア・EU関係（欧州議会代表団（マグレブ諸国関係担当）のモーリタニア訪問）（12月18日～20日付当地政府系メディアAMI）

1. ビラルール（Mohamed Ould BILAL MESSOUD）首相

(1) 会談後、ネメク団長は、AMIに対して以下のとおり述べた。

「今回のモーリタニア訪問は、同国政府が様々な分野で実施している改革について知るためである。今回の訪問は実験的なものであり、改革をさらに推し進め、今後どのように協力することができるのかをともに検討していくことができる。我々は、この国が機会に恵まれていることを知り、美しいモーリタニアに触れることができ嬉しく思う。温かい歓迎と惜しみないおもてなしに感謝する。」

(2) 会談には、ディエ文化・青少年・スポーツ・議会関係大臣、ジョーンズ駐モーリタニアEU大使等が同席した。

2. レミン（Mohamed Ahmed Ould Mohamed LEMINE）内務・地方分権大臣

内務省事務次官同席の下で行われた本会談では、モーリタニア・EU間の多岐にわたる様々な協力の強化・発展について話し合われた。

3. サイド (Mohamed Yahya Ould SAAID) 外務・協力・在外モーリタニア人副大臣

会談では、開発、難民、移民、地域における安全保障上の課題に関して話し合われた。

4. メギット (Mohamed Bamba MEGUETT) 国民議会議長

モーリタニア・EU間の多岐にわたる様々な協力の強化・発展、特に議会分野における共通の関心事について議論する機会となった。会談には、サーレハ (Mr. Abdallahi Ould Saleh) 国民議会事務局長及び3名の国民議会議員 (Mohamed Lemine Amar、Alioune Kane、Mouna Dey) が同席した。

5. 国民議会技術委員会

両者間の協力強化に関する宣言への署名という形で結実した。カーン (Mr. Mamoudou Kane) 委員長は、今回の会談の開催に満足し、署名された宣言が両者間の協力の新たなページを開くことを期待した。

6. ハメッド (Mahi Ould Hamed) ダフラ・ヌアディブ州知事 (ワリ)

漁業、安全保障をはじめとする様々な分野において、モーリタニアとEUの緊密な協力関係を協議した。両者は、双方の協力が共通の関心に沿って着実に進展していることを強調した。ネメク団長は、モーリタニアを特徴づける治安と安定が協力の真の触媒となっていることを指摘した。

## 【経済協力】

●モーリタニア開発協力（アフリカ開発銀行理事会「225kV送電線事業」承認）（12月19日付当地独立系メディア「Cridem」）

1. 2023年12月14日、コートジボワールの首都アビジャンで開催されたアフリカ開発基金の理事会において、マリ及びモーリタニアに対する3億290万米ドルの融資が承認され、「Desert to Power」イニシアティブの下、225kV モーリタニア・マリ間電力相互接続及び関連太陽光発電所開発プロジェクトが実施されることとなった。

2. 「VivAfrik」が受け取ったプレスリリースによると、アフリカ開発銀行（AfDB）グループの譲許的支援は、モーリタニアに2億6960万ドル、マリに3330万ドルである。プロジェクトの残りの資金（約8億8800万ドル）は、他のパートナーや気候変動基金から提供される。

3. モーリタニア・マリ間の225kV電力相互接続プロジェクトは、太陽光発電所の開発と組み合わせられ、太陽光エネルギー生産の開発を促進し、これらサヘル地域の2か国における普遍的な電力アクセスを保証することを目的とした戦略的投資事業である。

4. 本プロジェクトの目的は、両国間に600メガワット（MW）の送電容量を持つ1373キロメートルの高圧電力相互接続を確立すること、モーリタニアのキファ（Kiffa）に相互接続できる50MWの太陽光発電所を建設すること、そして両地域の10万世帯（モーリタニア8万世帯、マリ2万世帯）を新たに電力網に接続することである。プレスリリースによれば、同プロジェクトは農業起業の機会を創出し、若者や女性にサービスを提供する。

5. 「Desert to Power」イニシアティブの優先事業である同プロジェクトは、プロジェクト受益国によって2021年に承認された地域ロードマップに含まれている。マリ、ブルキナファソ、ニジェールを経由してモーリタニアとチャドを結ぶサヘル地域横断バックボーン最初のセクションである。相互接続は、再生可能エネルギー発電所の開発を可能にし、その生産は相互接続された送電網により統合されることになる。運用が開始されれば、高品質で低炭素な電力を手ごろな価格で利用できるようになる。

6. シュロス（Daniel Schroth）AfDB再生可能エネルギー担当ディレクタ

一は、この前例のない両国に有利な基金の承認について、「このプロジェクトの承認は、「Desert to Power」イニシアティブが、両国の再生可能エネルギー生産施設の開発を可能にするプロジェクトの構成を通じて、徐々に具体化していることを示している。」と述べた。

7. ブロンバーグ (Malinne Blomberg) AfDBモーリタニア事務所責任者兼北アフリカ地域担当副専務理事は「このプロジェクトの準備は、マリ及びモーリタニアの両当局とアフリカ開発銀行にとって挑戦であった。このプロジェクトが承認されたことで、モーリタニアの電力セクターに対する世銀の支援が強化された。この包括的で持続可能なプロジェクトは、アフリカにおけるグリーンインフラ整備を支援するというAfDBの方針を具現化したものである。このプロジェクトは、民間セクターの振興、貿易の促進、雇用機会の創出に影響を与えるだろう。」と強調した。

8. AfDBマリ事務所責任者は、「このプロジェクトを承認することで、AfDBグループはアフリカ諸国の開発プロジェクトを支援するというコミットメントを再び示すことになる。手頃な価格で質の高い電力が恒常的に利用できるようになることで、受益地域の住民の強靭性が強化される。マリでは、このプロジェクトはカーユ (Kayes) で実施され、接続される50町村の2万世帯 (50万人) が恩恵を受ける。」と述べた。

●平成30年度対モーリタニア無償資金協力「ONISPAヌアディブ検査・分析所建設計画」(引渡式の実施)

1. 12月19日、内田大使は、モハメド・ウルド・ビラール・メスード (Mohamed Ould BILAL MESSOUD) 首相、モクタール・アルフセイン・ラム (Moctar Alhousesyni LAM) 漁業・海洋経済大臣等出席の下、平成30年度対モーリタニア無償資金協力「ONISPAヌアディブ検査・分析所建設計画」引渡式を執り行った。

2. 本式典は、当地独立記念日 (11月28日) 63周年イベントの一環として、本案件以外のモーリタニア政府や他ドナーのプロジェクトの起工式・竣工式等と合わせて実施されたため、その模様は、モーリタニアTV (国営) 及びモーリタニア・ラジオ (国営) で報じられた他、当地政府系メディア「AMI」(一部記事別添参考) などで通常の式典よりも大きく取り上げられた。なお、本式典にはガズワニ大統領が出席する予定であったが、クウェート首長薨去による同地訪問が急遽決まったため、ビラール首相が代理出席した。

### 3. 式典概要

(1) 日時：12月19日10時～

(2) 場所：水産物衛生検査公社（ONISPA）ヌアディブ検査・分析所

(3) 出席者（モーリタニア側）：ピラール首相、ラム漁業相、ダルティージュ ONISPA 総裁、ダフラ・ヌアディブ地域首長、ヌアディブ市長、ヌアディブ経済特区総裁他約300名

### 4. 内田大使スピーチ概要

(1) 今回の計画により生まれ変わるヌアディブONISPAが、科学的知見をもってモーリタニアの水産資源の保全に貢献しつつ、安全でより品質の高い水産物の国際市場へのより一層多くの供給に寄与することを願う。

(2) 漁業分野における協力は、両国の友好のシンボルである。我が国は、1970年代から今日に至るまで一貫してヌアクショットやヌアディブの港湾や魚市場の建設など数多くの漁業分野の協力をを行い、モーリタニアの水産セクターの発展のパートナーとして貢献し続けてきた。

(3) 今後とも、水産分野を含むより多様化した分野において協力していきたい。最後に、今回の計画により、モーリタニア水産分野のさらなる発展及び両国政府と国民の間の友好関係が一層強化されることを願う。



## 【文化】

### ●一般向け対日理解促進講義（12月19日）

12月19日、「Using the Art of MANGA and ANIME to influence the society particularly the young generation」及び「Karate in Mauritania」の2つのテーマに関して、モーリタニア日本友の会（AJM）及びモーリタニア空手連盟と協力し、訪日の経験等がない一般国民向けに、モーリタニア・日本の二国間関係につき文化・スポーツの観点から講演を行い、対日理解促進のための広報活動を実施した。



### ●国立行政・報道・司法学院（ENAJM）での対日理解促進講義（12月25日及び26日）

1. 内田大使は、国立行政・報道・司法学院（ENAJM）において、12月25日、同校政治・経済コース所属の学生に対して、タキ・シディ（H. E. Mr. Taki Ould SIDI）元在京大使と日・モーリタニア関係一般に関する講義を行った。
2. 「モーリタニア日本友の会」の会員である元国費留学生、在京大での勤務経験のある外交官等を講師に招き、当国随一のエリート輩出校である国立行政・報道・司法学院（ENAJM）において、彼らの日本滞在経験を活かした講義をオムニバス形式で3回に分けて開催し、モーリタニアの将来を担う学生の対日理解を促進する機会となった。



## 【その他】

### ●モーリタニア・日本友好議連発足式

1. 12月21日、内田大使は、国民議会において開催されたモーリタニア・日本友好議連の発足式に出席した。

2. モ・日議連は、本年5月の国民議会選挙を受けて多くの議連所属議員が選挙で落選し、選挙前に存在していたモ・日議連は解散されたが、前回から引き続きモ・日議連会長に就任したヤコブ（Mr. Yacoub Mohamed Abderrahmane Moine）議員の主導のもと、11名の議員で成るモ・日議連が再編された。議連メンバー11名の内、3名が継続、8名が新規メンバー。本発足式には、都合がつかず出席できなかったメンバーを除くメンバーが出席。

3. 冒頭、インパラ（Mr. Ahmedou Mohamed Mahfouz Ould Mbala）第二副議長から、今次モーリタニア・日本友好議連の発足により両国の友好関係が促進されることへの期待を述べ、内田大使から同旨の挨拶を行った後、日本を紹介するビデオ上映と日本に関する基礎的な事項に関するプレゼンを行った。

4. 最後に、ヤコブ会長から、議会交流を活発化させていき、両国共通の利益に資する二国間関係関係の今後の強化と発展を目指したい旨述べ、記念撮影を行って発足式を了した。

